

【校長室の窓】 R 2年6月

頑張れ！試練と誠実に向き合った3年生

校長 畑野 公昭

夏の陽ざしが強くなり、戸外では汗ばむ季節となりました。春に芽吹いた草木の成長も著しく、今が伸び盛りの高校生が駆け抜けている人生の時期と重なるかのような季節です。

さて、今年度、そのような高校生の成長を測る機会であった高総体が、新型コロナウイルスの影響で中止となりました。高総体を目指して頑張ってきた部活動生、特に3年生にとっては、忸怩たる思いだったろうと思います。

しかし、3年生の運動部活動生は、5月14日の放課後にそのことを知らせた後も、練習を見に回ると笑顔であいさつをしてくれ、懸命に練習を重ねる様子に変わりはありませんでした。私は、その姿に心を打たれました。大きな目標を失いながらも、競技へ向かう精神や技術を後輩に伝授し、自分に区切りをつけるために、代替大会や部内でのけじめとなる練習試合に向けて、たゆむことなく最後まで努力を積み重ねた生徒を、私は誇りに思います。

6月2日、生徒会が企画した3年生を励ます「体育部生徒激励式」を、新型コロナウイルス感染予防のため、中庭で行いました。高総体で着用する予定だったユニフォームに身を包んだ3年生が部ごとに入場し、一人ひとりの呼名の後、これまでの取組や後輩に託す思いを主将が述べ、中庭を囲む校舎から見守る生徒が拍手でねぎらう形で行いましたが、とても充実したひとときでした。

その中で、以下のようなことばを3年生にかけました。

高総体という目標は失われたが、逆にそれまで見えにくかったものがみえたのではないか。それはあたかも太陽が地平線に沈んだ後に、私たちを常に取り囲む美しい星空が見えるように。支えあうチームメイトとの絆、ともに身体を動かしたり黙って見守ったりする顧問の先生が存在、ときに漏らす不安を受け止めてくれた家族の支え、入部した当時の純粋に競技に憧れる気持ち、努力してきたプロセスそのもの、部の後輩に託すもの…。目標達成に向け一直線に駆け抜ける間に見過ごしそうなものが、逆にいろいろと見えたのではないか。目標を見失って無駄に思えたかもしれないが、人生、特に若い時期は、無駄なことは何一つない。むしろ無駄に見えることのなかに、大切な芽が育っている。この経験は、必ず皆さんの今後の糧となる…。

なお、全校生徒の気持ちをひとつにまとめる激励会の企画、運営に携わった生徒会や関係者の皆さんに感謝を申し上げます。与えられた試練と誠実に向き合った3年生の大きな飛躍を期待しています！

★先月の「校長室より」の中で記した（以下、次号につづく）の内容については、紙面の関係で別の月に回します。